

科目名	臨床演習・実習 4							年度	2026
英語科目名	Clinical Practice 4							学期	後期
学科・学年	鍼灸科 3年次	必/選	必	時間数	45	単位数	1	種別※	実習+実技
担当教員	山下俊樹、大下裕之、宮本陽平、矢野恭一郎、安藤亮	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		

【科目の目的】

- 臨床の現場を想定した症例への取り組みを通して、知識と実践の総合的な力を養う。
- 臨床現場での受付や接客から治療までの一連の体験を通して総合的な臨牀力を身に付ける。
- 発表を前提とした資料作成の過程を学習する。

【科目の概要】

- 指導教員のもとで、模擬患者に対する問診・診察・施術までの一連の流れを学ぶ。
- 症例発表会に向けた資料作成方法や症例報告の手順を学ぶ。

【到達目標】

- A: 模擬患者の病態の把握ができる。
 B: 適切な問診ができる。
 C: 適切な徒手検査法ができる
 D: 適切な施術ができる。
 E: 症例報告に向けた資料作成ができる。

【授業の注意点】

授業日数の4分の3以上の出席は必須である。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	的確な病態の把握ができている。	ほとんど間違いがなくできている。	ある程度は自主的にできている。	出来ていない部分が目立つ。	全くできていない。
到達目標 B	的確な問診ができている。	ほとんど聞き漏れがなくできている。	ある程度はできている。	出来ていない部分が目立つ。	全くできていない。
到達目標 C	的確な徒手検査法ができている。	ほとんど間違いがなくできている。	ある程度はできている。	出来ていない部分が目立つ。	全くできていない。
到達目標 D	的確な施術ができている。	ほとんど間違いがなくできている。	ある程度はできている。	出来ていない部分が目立つ。	全くできていない。
到達目標 E	完璧な資料作成ができている。	ほとんど間違いがなくできている。	ある程度はできている。	出来ていない部分が目立つ。	全くできていない。

【教科書】

実習する際に必要な教科書を準備すること

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

出席状況、授業に取り組む姿勢、課題の提出にて評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		臨床演習・実習 4			年度	2026	
英語表記		Clinical Practice 4			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	オリエンテーション	全体の概要説明と1診目に向けての準備	1	オリエンテーション	この授業の全体像を捉える	2	
			2	1診目に向けて準備	問診事項、検査方法、治療方針等を事前に整理できる		
2	1診目	事前に考えたものをもとにしなが、患者の施術を行う。	1	問診・検査	問診や検査を適切に行う	2	
			2	病態把握	病態把握を適切に行う		
			3	施術	施術を適切に安全に行う		
3	カンファレンス	1診目のおさらいと2診目の準備	1	1診目のおさらい	問診事項、検査方法、病態把握、施術を見直し、過不足の判断ができる。	2	
			2	2診目の準備	問診事項、検査方法、治療方針等を事前に整理できる		
4	2診目	事前に考えたものをもとにしなが、患者の施術を行う。	1	問診・検査	問診や検査を適切に行う	2	
			2	病態把握	病態把握を適切に行う		
			3	施術	施術を適切に安全に行う		
5	カンファレンス	2診目のおさらいと3診目の準備	1	2診目のおさらい	問診事項、検査方法、病態把握、施術を見直し、過不足の判断ができる。	2	
			2	3診目の準備	問診事項、検査方法、治療方針等を事前に整理できる		
6	3診目	事前に考えたものをもとにしなが、患者の施術を行う。	1	問診・検査	問診や検査を適切に行う	2	
			2	病態把握	病態把握を適切に行う		
			3	施術	施術を適切に安全に行う		
7	カンファレンス	3診目のおさらいと4診目の準備	1	3診目のおさらい	問診事項、検査方法、病態把握、施術を見直し、過不足の判断ができる。	2	
			2	4診目の準備	問診事項、検査方法、治療方針等を事前に整理できる		
8	4診目	事前に考えたものをもとにしなが、患者の施術を行う。	1	問診・検査	問診や検査を適切に行う	2	
			2	病態把握	病態把握を適切に行う		
			3	施術	施術を適切に安全に行う		
9	症例のまとめ	症例に対し、ここまでの全体のまとめを行い、症例検討会に向けた資料を作成する。	1	まとめ資料作成	症例報告の手順に則った資料作成ができる。	2	
10	症例検討会	作成した資料を基にしたプレゼンテーションを行う。	1	プレゼンテーション	聞き手に伝わるプレゼンテーションができる。プレゼンテーションに対する質問に答えられる。	2	
11							
12							
13							
14							
15							

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等